

延岡市の砂浜海岸から得られた宮崎県初記録の ホカケトラギス科魚類マツバラトラギス

緒方悠輝也¹・村瀬敦宣^{1,2}

¹ 〒 889-0517 宮崎県延岡市赤水町 376-6 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター
延岡フィールド (水産実験所)

² 〒 889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1 宮崎大学農学部海洋生物環境学科

Abstract

A single specimen of a percophid fish, *Matsubaraea fusiformis* (61.1 mm in standard length), was collected in sandy shore of Nobeoka City (32°34'46.56"N, 131°42'10.08"E), Miyazaki Prefecture, eastern Kyushu, southern Japan. This specimen verifiably represents the first record of the species from the prefecture.

はじめに

ホカケトラギス科 Percophidae の魚類は日本からは 6 属 13 種が知られており、大半は水深数十メートルよりも深い環境に生息しているが、その中でも唯一水深数メートル未満の浅場に出現する種としてマツバラトラギス *Matsubaraea fusiformis* (Fowler, 1943) が知られている (中坊・土居内, 2013; 片山, 2018)。このたび、宮崎県沿岸における魚類相調査の過程で本種に同定される魚類が採集された。本標本は宮崎県沿岸における本種の初めての記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

標本の計数・計測は Hubbs and Lagler (2004) に従い、計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。標準体長は SL と表記した。色彩は、生鮮時の標本写真 (Fig. 1) に基づき記載した。本報告に用いた標本およびその生鮮写真は神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類標本資料 (KPM-NI) および魚類写真資料 (KPM-NR) としてそれぞれ保管されている。なお、標本番号は博物館のデー

タベース上では 0 を含めた 7 桁の数字で表記される (例えば、KPM-NI0052048)。

結果と考察

Matsubaraea fusiformis (Fowler, 1943)

マツバラトラギス (Fig. 1; Table 1)

標本 KPM-NI 52048, 体長 61.1 mm, 宮崎県延岡市方財町沿岸 (北緯 32 度 34 分 46.56 秒, 東経 131 度 42 分 10.08 秒), 水深 0.7-1.0 m, 2017 年 3 月 30 日, 地曳網。

写真資料 KPM-NR 182279A-B, KPM-NI 52048 の生鮮写真。

記載 調査標本の計数形質と体各部の体長に対する百分率 (%) を Table 1 に示した。頭部、体ともに円筒形。吻は突出しており、下顎は上顎に比べわずかに短い。上顎後端は眼窩後縁直下に達する。前鼻孔は吻端と眼の前部の中央部に、後鼻孔は前鼻孔と眼の前部の中央部に開孔し、前鼻孔は後鼻孔に比べて大きい。前鼻孔全体の縁および後鼻孔の前縁には櫛状の肉質突起がある。眼は頭部背面の上位に位置し、両眼は近接する。背鰭は 2 基。第 2 背鰭の第 1 軟条以外は 2 分枝し、最終軟条のみ基部から分枝する。第 2 背鰭の輪郭は中央部でくぼんでおり、ここにある軟条は他の軟条に比べて短い。胸鰭の後端は臀鰭の第 2-3 軟条の直上に達する。臀鰭の軟条は全て 2 分枝し、最終軟条のみ基部から分枝する。尾鰭の後端はわず

Ogata, Y. and A. Murase. 2020. First record of a percophid fish, *Matsubaraea fusiformis*, from Miyazaki Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 47: 33-35.

✉ YO: Nobeoka Marine Science Station, Faculty of Agriculture, University of Miyazaki, 376-6 Akamizu, Nobeoka, Miyazaki 889-0517, Japan (e-mail: yukiyalates@gmail.com).

Received: 2 June 2020; published online: 3 June 2020; http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_047/047-006.pdf



Fig. 1. Fresh specimen of *Matsubaraea fusiformis* collected from Nobeoka City, Miyazaki Prefecture, southern Japan: KPM-NI 52048, 61.1 mm SL (photo number KPM-NR 182279B). Photo by A. Murase.

かに弧状となる。

色彩 頭部の地色は乳白色。頭部背面は地色の上に茶褐色の網目模様が入る。下唇と頭部側面には茶褐色斑が散在する。前鰓蓋骨後端直後（主鰓蓋骨前方）に金色の1不定形斑がある。体側も頭部と同様の乳白色の地色を呈しており、背面に2本、側線直下に1本の茶褐色縦線が頭部から尾鰭基底に向かって走る。全ての鰭の鰭膜は透明で、腹鰭以外の鰭の各鰭条には複数個の茶褐色斑がある。

分布 国内での分布記録は、日本海・東シナ

海沿岸からは青森県七里長浜，新潟県柏崎，鳥取県，瀬戸内海，鹿児島県吹上浜が，太平洋沿岸からは神奈川県大浦湾，土佐湾，宮崎県延岡市が知られている（Senta et al., 1989；Matsuura, 1991；Noichi et al., 1991；竹内ほか，2012；中坊・土居内，2013；須田ほか，2014；加藤ほか，2017；本研究）。国外ではソククラ（タイ），ルソン島（フィリピン），モートン湾（オーストラリア）に分布する（Matsuura, 1991；Johnson, 1999）。

備考 宮崎県延岡市の沿岸から得られた標本（KPM-NI 52048）は，吻端に棘がないこと，第1背鰭が3棘であること，および第2背鰭の中央部がくぼむことが，中坊・土居内（2013）の示したマツバラトラギス *M. fusiformis* の特徴によく一致したため本種に同定された。また，調査標本の側線下方横列鱗数は3.5枚で，Senta et al. (1989)の2.5枚に比べ多かったが，その他の計数が一致するため，この鱗数の相違は種内変異であると判断された。

ホカケトラギス科の魚類は水深数十メートル以上のやや深場に生息する種がほとんどだが（中坊・土居内，2013；片山，2018），本種は日本産同科魚類の中で唯一，潮間帯を含む水深5 mまでの浅海域に生息していることが知られている（Noichi et al., 1991；中坊・土居内，2013）。本報告で調査した標本個体も小型地曳網により水深0.7–1.0 mの砂浜海岸で採集されたものであり，既知の生息環境とよく一致していた。本報告により，九州の太平洋側の砂浜海岸にもマツバラトラギスが分布していることが確かめられた。

Table 1. Counts and measurements of *Matsubaraea fusiformis* (KPM-NI 52048) from Miyazaki Prefecture, southern Japan

Standard length (mm; SL)	61.1
Counts	
Dorsal-fin rays	III-16
Anal-fin rays	25
Pectoral-fin rays	15
Pelvic-fin rays	1, 5
Pored lateral-line scales	36
Scales above lateral line	2.5
Scales below lateral line	3.5
Measurements (% of SL)	
Total length	117.2
Body depth at pelvic-fin origin	8.5
Head length	23.9
Snout length	4.7
Length of orbit	3.9
Predorsal length	38.1
Preanal length	39.3
Length of dorsal-fin base	57.4
Length of anal-fin base	55.3
Length of pectoral fin	21.9
Caudal-peduncle depth	4.7
Caudal-peduncle length	4.3
1st dorsal-fin spine length	7.4
2nd dorsal-fin spine length	7.0
3rd dorsal-fin spine length	6.9

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたって、以下の方々にご協力をいただきました。宮崎県水産試験場の皆様には標本採集において全面的にご支援をいただきました。神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏博士には、標本と写真の登録を賜りました。また、宮崎大学大学院農学研究科の山崎裕太氏には標本の計数・計測に関するご助言をいただきました。以上の方々に対し、この場をお借りして感謝申し上げます。

引用文献

- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 2004. Fishes of the Great Lakes region, revised edn. Revised by G. R. Smith. University of Michigan Press, Ann Arbor. xvii + 276 pp., 32 pls.
- Johnson, J. W. 1999. Annotated checklist of the fishes of Moreton Bay, Queensland, Australia. *Memoirs of the Queensland Museum*, 43: 709–762.
- 片山英里. 2018. ホカケトラギス科. Pp. 368–369. 中坊徹次 (編), 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京.
- 加藤めい子・須田有輔・南條楠土. 2017. 開放的な砂浜海岸である鹿児島県吹上浜のサーフゾーンの仔稚魚群集と地形動態的な生息環境条件. *Journal of National Fisheries University*, 65: 121–130.
- Matsuura, K. 1991. The percophid fish, *Matsubaraea setouchiensis*, a junior synonym of *Matsubaraea fusiformis*. *Japanese Journal of Ichthyology*, 38: 61–62.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013. ホカケトラギス科. Pp. 1265–1268, 2091–2092. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Noichi, T, T. Kanbara, Subiyanto and T. Senta. 1991. Depth distribution of the percophid *Matsubaraea fusiforme* in Fukiagehama beach, Kyushu. *Japanese Journal of Ichthyology*, 38: 245–248.
- Senta, T., T. Noichi and K. Shigemitsu. 1989. The percophid *Matsubaraea setouchiensis* from the Fukiagehama beach, south-western Kyushu. *Bulletin of the Faculty of Fisheries, Nagasaki University*, 65: 1–8.
- 須田有輔・中根幸則・大富 潤・國森拓也. 2014. 開放的な砂浜海岸である鹿児島県吹上浜のサーフゾーン魚類相. *Journal of National Fisheries University*, 63: 1–15.
- 竹内直子・瀬能 宏・青木優和. 2012. 伊豆半島大浦湾の魚類相および相模湾沿岸域におけるその生物地理学的特性. *日本生物地理学会会報*, 67: 41–50.